

10月の防除のポイント

令和6年9月27日
東京都病害虫防除所

主な作物の病害虫防除について、お知らせします。

<アブラナ科野菜>

○ヨトウムシ類及びオオタバコガ幼虫

フェロモントラップ調査では、ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ、オオタバコガが多く誘殺されています。例年10月のヨトウムシ類やオオタバコガは老齢幼虫が中心となりますが、老齢幼虫の摂食量は全幼虫期間の90%以上を占めると言われています。また、老齢幼虫は農薬が効きにくくなります。ほ場を注意深く見回り、食害の痕跡がある場合は、若齢幼虫のうちに防除指針を参考にしっかり防除しましょう。

○アブラムシ類

アブラムシ類は主にダイコンアブラムシとモモアカアブラムシが発生します。特に、ダイコンアブラムシが寄生すると葉の引きつれが生じ、商品価値が低下します。防除指針を参考に防除を行いましょう。



図1 キャベツに寄生する
ダイコンアブラムシ



図2 アブラムシによる生育障害

○細菌性病害（黒腐病、黒斑細菌病、軟腐病）

軟腐病は高温で、黒腐病と黒斑細菌病は比較的気温が涼しい時期に発生します。風雨による傷や害虫の食害痕から細菌が侵入し、天候不順が続くと発生が増加します。そのため特に台風の後には注意が必要です。

いずれも病斑の進展が早く、発病後の防除は困難なため、防除指針を参考に

予防散布に努めるとともに、葉裏や地際部等もよく観察し初発を見逃さないようにしましょう。



図3 キャベツ黒腐病



図4 ブロccoli黒腐病

<施設トマト>

○黄化葉巻病

トマト黄化葉巻病の原因となるタバココナジラミの侵入は、今後は次第に減少しますが、引き続き注意が必要です。10月までに侵入を防ぐことができればその後の害虫対策は非常に楽になります。9月に引き続き感染株の抜き取り、成虫に効果の高い殺虫剤の散布を継続しましょう。

○葉かび病及びすすかび病

葉かび病とすすかび病は症状が類似しており、肉眼での判別は困難です。両病害とも多発すると防除が難しいため、葉かび病とすすかび病の両方を考慮し、予防を中心とした防除対策を検討しましょう。

<抑制キュウリ>

○アブラムシ類、コナジラミ類、ハダニ類

アブラムシ類及びコナジラミ類はウイルス病を媒介します。防除指針を参考に防除を行いましょ。ハダニ類は葉表に白いかすり状の模様が見つかったら要注意です。ハダニ類の発生を確認したら殺ダニ剤を散布しましょ。

○うどんこ病及び褐斑病

例年、栽培中後期に、茎葉の過繁茂や成り疲れによる草勢の低下等の要因が重なり両病害とも多発する傾向にあります。多発すると防除が困難となり、収量が低下する恐れもありますので、発生を認めたら防除指針を参考に葉裏にも十分かかるよう薬剤散布を行いましょ。

上記以外の病害虫についてのご相談は、電話（042-525-8236）又はEメール（S0200303@section.metro.tokyo.jp）にてお問い合わせ下さい。